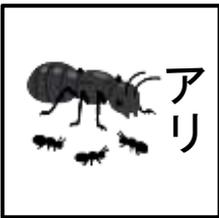
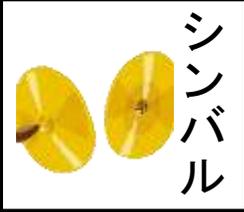


大項目	読むこと
小項目	カタカナの読み
タイトル (教材名)	カタカナかるた (イラスト編)
目的 身につけてほしい力	・ゲーム感覚で楽しみながら、カタカナの文字と音のマッチングを行う。
教材の概要  材料 作り方 工夫点など  画像	     <p>(図)</p> <p>・図のような、イラストとそのイラストをあらわすカタカナが記されたカードを作成する(カタカナの読み「ひらがなとつなげて覚えよう！(イラスト編)」のカードの、ひらがなの表記がないもの)。</p>
教材の使用方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 指導者は、イラストとカタカナが記されたカードを机上にランダムに置く。</li> <li>② 指導者は、児童生徒が机上有るカードを見ている(注意を向けている)ことを確認したのち、机上有るいずれかのカードを読み上げる。</li> <li>③ 児童生徒は、指導者によって読み上げられたカードを見つけてとる(カルタの要領で)。</li> <li>④ 児童生徒は、カード1枚ごとにとったカードを確認して、声に出して読む(文字と音とイラストのマッチングの確認)。</li> <li>⑤ 机上有るカードが残り1枚(児童生徒が1人の場合)、もしくは0枚(児童生徒が複数人の場合)になれば終了。</li> </ol>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カタカナの読みがある程度定着してきていることを確認してから行う。</li> <li>・児童生徒の活動人数としては、指導者とのマンツーマン、複数人で行うなどが考えられる。複数人で行う際は、児童生徒から見てカードの向きが一定でなくなるため、文字の形をとらえることがむずかしい児童生徒がいる際は配慮が必要である。</li> <li>・指導者とのマンツーマンで学習を行う際は、児童生徒から見て、カードが一定の向きで置かれていることが望ましい。</li> <li>・「すべてのカードをとる」ことが児童生徒の負担になると考えられる際は、例えば「5枚のカードをとれば終了」など、児童生徒が活動意欲を失わないよう、柔軟にルールを変更する必要がある。</li> <li>・カタカナは表音文字であり、字そのものに意味はないため、カタカナで表現されるイラストとカタカナをセットで覚えることで、カタカナの意味づけを行っている(文字のみではイメージ化がむずかしい児童生徒への支援、記憶の定着への支援)。</li> </ul>